九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

昭和戦前期にいたる「朝鮮出兵」関係文献目録（稿）

中野, 等
九州大学大学院比較社会文化研究院 : 教授

https://doi.org/10.15017/1546839

出版情報：九州文化史研究所紀要. 57, pp.1-15, 2014-03-31. 九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門
バージョン：
権利関係：

昭和戦前期にいたる「朝鮮出兵」関係文献目録（稿）

中　野　　等

一、本目録は、豊臣政権がおこなったいわゆる「朝鮮出兵」（この戦役の名称については、唐入り、文禄・慶長の役、朝鮮侵略、大陸侵攻、壬辰倭乱・丁酉再乱などがある）に関係する文献をまとめたものである。

一、近世における著作物と近代以降のものは、その性格を大きく違えるので、今回近世の著作物は対象としていない。また、第二次大戦後にも研究環境・状況が大きく変容するので割愛した。ここで、収録の対象としているのは昭和戦前期にいたる近代日本での刊行物に限った。韓国併合以降の朝鮮半島において刊行、出版されたものは収録対象としている。

一、収録文献は書籍と論文・記事とに分けた。書籍については刊行年次、肩書、著者、書名、出版社（出版者）、備考等のデータを収録した。

一、論文・記事については刊行年次、肩書、著者、論文名・記事名、収録誌名、備考等のデータを収録した。肩書は論文・記事の本体に記載がある場合に付記したもので、必ずしも網羅的ではない。また、備考には収録誌の性格や変遷、再録・復刊等の情報を収めている。

一、収録した大半の文献は実見し得たものであるが、刊行からの時間的経過等によって、未見のものも含まれる。こうした、いわば間接的な収録にあたっては、桜井義之著『朝鮮研究文献誌　明治・大正編』（龍渓書舎、一九七九年）等の文献を参考にした。

一、朝鮮半島で出版・刊行された地誌類や旅行案内記などにも、「朝鮮出兵」の事蹟や史跡を詳細に紹介したものが多い。今回収録すべく努めたが、必ずしも悉皆的な調査にはいたらなかった。追って他日を期したい。

近世の著作物目録、また第二次大戦後を対象とした文献目録についても同様、別の機会に紹介する。

一、データの整理にあたっては、九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程の井手麻衣子氏にご協力を頂いた。記して深甚の謝意を伝えたい。

一、本目録は平成二五年度科学研究費補助金・基盤研究（C）（課題番号二三五二〇八一九）の成果の一部である。

書籍

刊行年	肩　書	著　者	書　名	出版社（出版者）	備　考
1876		長内良太郎・鈴木実訳	『朝鮮柳氏 懲毖録対訳』	東京 含英社	全四冊刊行とあるが、一冊のみか？
1878		永島福太郎編集	『朝鮮軍記』	堤吉兵衛出版	「絵本」
1878		永島福太郎編集	『太閤記 朝鮮軍記 後篇』	堤吉兵衛出版	「絵本」
1879		永島辰五郎編輯	『朝鮮攻伐 第壱号』	堤吉兵衛出版	「絵本」
1879		永島辰五郎編輯	『朝鮮攻伐 第弐号』	堤吉兵衛出版	「絵本」
1881	東京日々新聞編輯長	甫喜山景雄校	『清正朝鮮記』	東京 古書保存書屋	
1884		記録局	『外交史稿』	外務省	
1885		（菊池春日楼）	『朝鮮軍記』	野村銀次郎版	
1885		嵯峨野増太郎輯	『絵本 朝鮮軍記』	日月堂	
1885		堤吉兵衛編輯出版兼	『太閤記 朝鮮攻伐 全』		
1886			『絵本 朝鮮軍記』	伊東留吉版	
1887		青木輔清編述	『絵本 朝鮮征伐記』	青木輔清編述出版	
1887		藤井浅次郎編集兼出版	『絵本 朝鮮征伐記』		堤吉兵衛編輯出版兼『太閤記 朝鮮攻伐全』の改版
1887		尾関トヨ編集兼出版	『絵本 朝鮮征伐記』		
1887		長谷川孝次郎編集兼出版	『絵本 朝鮮征伐記』		
1887		山本常次郎編集兼出版	『絵本 朝鮮征伐記』 上下	隆港堂	
1887		堤吉兵衛編集兼出版	『絵本 朝鮮征伐記』	印刷者 野村徳次郎	
1888		堤吉兵衛印刷著作兼発行	『絵本 朝鮮攻伐』		内題は『清正　朝鮮軍記』
1891			『太閤記 朝鮮征伐』	堤吉兵衛発行兼印刷	「絵本」
1892		惜香生（小田切寿万之助）	『文禄征韓水師始末 朝鮮李舜臣伝』	水交社	1996年、龍渓書舎から「韓国併合史研究資料」として復刊
1893		木下真弘	『豊太閤征外新史』	青山堂	
1894		北豊山人	『文禄慶長朝鮮役』	博聞社	
1894		松本愛重編	『豊太閤征韓秘録』 第一輯	成欽社	
1894		松浦厚編	『松浦法印征韓日記抄』	吉川半七（東京）刊	
1894		服部　徹	『日韓交通史』…下篇近世史	東京 博聞社	2005年、龍渓書舎から「韓国併合史研究資料」として復刊
1894		山口　昺訳	『朝鮮 懲毖録』	東京 敬業社	
1903	海軍編修書記	谷　信治	『海の大日本史』	東京 大学館	
1903		神社司庁	『古事類苑』 外交部		
1904	海軍中佐・子爵	小笠原長生	『日本帝国海上権力史講義』…第五章豊臣秀吉ノ遠征	春陽堂	
1905		山崎暁三郎（梅花園主人）	『朝鮮征伐 加藤清正武勇の勲』	国華堂	
1905		史学会編	『弘安文禄征戦偉績』	冨山房	
1906			『島津氏元寇討伐紀事／島津氏朝鮮武功紀事』		島津家による限定出版
1907		W・G・アストン（増田藤之助訳）	『英和対照 豊太閤征韓史』	博文館	
1910		奥田直毅（鯨洋）	『日韓古蹟』 正・続	日韓書房	
1911	中央新聞記者	福田東作	『韓国併合紀念史 全』…第三章日韓中古の交通	大日本実業協会	
1913			『李舜臣伝附年表』	水交社	
1913		釈尾春芿編	柳成龍『懲毖録』	京城 古書刊行会	朝鮮群書大系続々第一輯（第三期第一輯）

刊行年	肩　書	著　者	書　名	出版社（出版者）	備　考
1912		青柳南冥（綱太郎）編纂	『朝鮮野談集』…「壬辰の乱の府庫の書籍尽く灰燼となる」ほか	朝鮮研究会	朝鮮研究会古書珍書第九輯、2009年に龍渓書舎から「韓国併合史研究資料」として復刊
1912		青柳南冥（綱太郎）編纂	『鮮人之記せる　豊太閤征韓戦記　全』	朝鮮研究会	朝鮮研究会古書珍書第十輯
1914		池内宏	『文禄慶長の役』 正編第一（『満鉄歴史調査報告』3）	南満州鉄道株式会社	1987年、吉川弘文館から復刊
1915		青柳南冥（綱太郎）編纂	内藤虎次郎・浅見倫太郎・福田幹次郎・延浚・山道襄一・河合弘民・青柳綱太郎解説『慕夏堂集』	朝鮮研究会	朝鮮研究会古書珍書第十五輯
1915		日本歴史地理学会編	『安土桃山時代史論』…大森金五郎「秀吉の外征」	仁友社	
1917		辻善之助	『海外交通史話』	内外書籍	
1918	海軍中将	東郷吉太郎編著	『泗川新寨戦捷之偉蹟』	薩藩史料調査会	
1918		高橋晋一郎訳	『鮮人の観たる太閤秀吉』		
1919		篠田治策	『文禄役と平壌』	文鮮堂（平安南道教育会）	
1920		高橋章之助	『宗家と朝鮮』	（私家版）	1996年、龍渓書舎から「韓国併合史研究資料」として復刊
1921		細井肇編	長野直彦訳『懲毖録』	京城　自由討究社	通俗朝鮮文庫第五輯、「南薫太平歌」と合冊で一本。
1921～22		徳富猪一郎（蘇峰）	『近世日本国民史　朝鮮役』上・中・下	民友社	
1922		杉村勇次郎	『軍事的批判　豊太閤朝鮮役』	日本学術普及会	
1922		渡辺村男	『碧蹄館大戦記』	東京　民友社	1984年青潮社から『柳川藩叢書』第一集として復刊
1922		三浦周行	『日本史の研究』第一輯…「豊太閤の対外的壮図と其敗因」・「豊太閤の書状」	岩波書店	
1924		参謀本部編	『日本戦史　朝鮮役』	偕行社	1978年、村田書店から復刊
1924		幣原坦	『朝鮮史話』・・・第十二話～第十五話	冨山房	
1924	陸軍少将	渡辺金造演	『碧蹄の戦―附　幸州城の戦―』	朝鮮第二十師団	
1925		田中義成	『豊臣時代史』	明治書院	
1925		朝鮮史学会編	『朝鮮史講座』「一般史」	朝鮮史学会	朝鮮史学会「朝鮮史講座」を合冊
1925		朝鮮史学会編	『朝鮮史講座』「分類史」	朝鮮史学会	朝鮮史学会「朝鮮史講座」を合冊
1925		朝鮮史学会編	『朝鮮史講座』「特別講義」	朝鮮史学会	朝鮮史学会「朝鮮史講座」を合冊
1926		青柳綱太郎（南冥）	『朝鮮史話と史蹟』・・・豊太閤征韓史話など	朝鮮研究会	
1927		瀬野馬熊	『朝鮮史大系』（三）近世史…第八章・第九章壬辰役	朝鮮史学会	1975年原書房から「ユーラシア叢書」として復刊
1930		青柳南冥（綱太郎）	『朝鮮史家の記せる　豊太閤朝鮮役』（文禄の巻）	京城新聞社	1973年名著出版から復刊
1930		辻善之助	『増訂　海外交通史話』	内外書籍	
1930		徳富猪一郎	『文禄・慶長以後、日本に於ける朝鮮の感化』	中央朝鮮協会	
1930		日笠護	『日鮮関係の史的考察と其研究』	四海書房	

刊行年	肩　書	著　者	書　名	出版社（出版者）	備　考
1930		今村　鞆	『船の朝鮮』	京城 螺炎書屋	2009年、龍渓書舎から「韓国併合史研究資料」として復刊
1930		三浦周行	『日本史の研究』第二輯…「朝鮮役」	岩波書店	
1930	陸軍大尉	長谷川基	『朝鮮役の梗概と碧蹄の戦』		
1932		ミカエル・シュタイシェン（ビリヨン訳）	『豊臣秀吉と切支丹大名―朝鮮征伐を中心として―』	ドンボスコ社（大分市）	
1935		坂本箕山（辰之助）	『日本外戦史』…「豊太閤の外征（朝鮮役）」	萬朝報社	
1936		池内宏	『文禄慶長の役』別編第一	東洋文庫	1987年、吉川弘文館から復刊
1937		朝鮮史編修会編	『朝鮮史』第四編第九巻（宣祖五年～宣祖二十五年）	朝鮮総督府	
1937		朝鮮史編修会編	『朝鮮史』第四編第十巻（宣祖二十六年～宣祖四十一年）	朝鮮総督府	
1937		朝鮮史編修会編	『宗家朝鮮陣文書』	朝鮮史編修会	朝鮮史料叢刊第十九
1938	陸軍中将	渡辺刀水（金造）	『碧蹄戦史―附 幸州の戦・蔚山の戦―』	明隣堂書店	
1939		京口元吉	『秀吉の朝鮮経略』	白揚社	「日本歴史文庫」の一冊
1942		有馬成甫	『朝鮮役水軍史』	空と海社	
1942		高柳光寿編	『大日本戦史』第四巻・・・中村栄孝「文禄慶長の役」	三教書院	
1943		新城常三	『戦国時代の交通』	畝傍書房	
1943		渡辺三男	『訳注 日本考』	大東出版社（※「許儀後の提報」を収める）	

論文・記事

刊行年	肩　書	著　者	論文名・記事名	収録誌名	備　考
1888		（無署名）	「明主より豊太閤に贈れる書」	『東洋学会雑誌』2-6	
1888		（無署名）	「明王豊公に贈れる書及上杉小西等諸士への箚付」	『東洋学会雑誌』2-8	
1889		（無署名）	「明使徹秀吉文」	亜細亜協会『会余録』4	亜細亜協会は末広重恭・仁礼敬之らによって設立。『会余録』はその機関誌。『会余録』は1977年に開明書院から復刻。
1890		（無署名）	「臨海君謝状」	亜細亜協会『会余録』7	
1890		（無署名）	「西征日記」	亜細亜協会『会余録』8	
1890		日下寛	「豊太閤の雄略」	『史学会雑誌』4	
1891		（無署名）	「明主封秀吉文」	亜細亜協会『会余録』10	
1891		（無署名）	「両国和平条件（其一、大明日本和平条件）」	亜細亜協会『会余録』10	
1891		（無署名）	「両国和平条件（其二、対大明勅使可告報之条）」	亜細亜協会『会余録』10	
1891		（無署名）	明主勅諭・各書参考	亜細亜協会『会余録』10	
1893		飯田武郷	「虎狩」	『好古叢書』2-5	
1894		千山万水楼主人	「豊太閤征韓論」	『国民之友』217～219	
1894		広瀬吉雄	「文禄ノ役朝鮮へ渡航ノ人数附 慶長再役ノ兵数」	『統計集誌』156、157	
1894		星野恒	「豊公征韓ノ話」	『東洋学芸雑誌』156、157	
1897		高楠順次郎	「豊公所持の朝鮮地図」	『反省雑誌』（明治30年8月）	
1897	文学士	中村徳五郎	「日明媾和破裂之顛末」	『史学雑誌』8-10、11、12	
1897		無署名（三上参次）	「朝鮮陣に関する一文書（加藤清正の書状）」	『史学雑誌』8-6、7	
1899		中村徳五郎	「文禄征韓理由」	『太陽』5-6	
1900	札幌中学校教諭	勝又鄭次郎	「明朝の方面より観察したる文禄の役」	『史学界』2-4、5、6、8、11、12	
1900		新見吉治	「文禄征韓の役　小西加藤先を争ひしといふは事実にあらず」	『史学界』2-9	
1900		（無署名）	「豊公征韓論」	『史学界』2-12	
1901		（無署名）	「豊太閤の降参状」	『黒竜』1-2	
1901		王星	「豊公征韓朝鮮義兵軍大将陣中日記」	『黒竜』1-1、2、3	
1902		林泰輔	「懲毖録」	『史学雑誌』13-9	
1903		幣原坦	「征韓軍京城占領論」	『韓国研究会　談話録』3	
1904		幣原坦	「沙也可」	『歴史地理』10-1	
1904		田中義成	「豊太閤の外征に於ける起因に就て」（講演要旨）	『史学雑誌』15-11	
1904		長田秋涛	「蔚山陣の加藤清正」	『太陽』10-4	
1904		碧蹄館主人	「豊太閤の朝鮮陣に関する壮快なる文書」	『歴史地理』6-3	
1904		（泪江漁郎）	「壬辰平壌の役」	『韓半島』1-2	

刊行年	肩　書	著　者	論文名・記事名	収録誌名	備　考
1905		星野　恒	「豊太閤画像に就て」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		田中義成	「豊太閤が外征の大目的を示したる文書」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		岡田正之	「文禄役に於ける我が戦闘力」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		三浦周行	「豊太閤の軍律」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		辻善之助	「安国寺恵瓊の書簡の一節」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		鈴木圓二	「蔚山籠城情況」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		藤田明	「豊太閤所持と伝へらるゝ扇面及び朝鮮役に用ゐられたる地図」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		村上直次郎	「豊臣秀吉フィリッピン諸島并台湾の入貢を促す」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		三上参次	「文禄役に於ける講和条件」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		八代国治	「文禄役に於ける俘虜の待遇」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		芝葛盛	「文禄役に於ける占領地収税の一斑」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		山県昌蔵	「文禄役の虎狩」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		平出鏗二郎	「文禄役の我が工芸に及ぼせる影響」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		黒板勝美	「高野山朝鮮陣の供養碑」	史学会編『弘安文禄征戦偉績』、冨山房	
1905		田中義成	「豊太閤の外征に於ける原因に就て」	『史学雑誌』16-8	
1905		大森金五郎	「文禄の役に於ける媾和談判の一節」	『歴史地理』7-8	
1905		大森金五郎	「対外軟」	『歴史地理』7-9	
1905		護国生	「文禄役北韓戦捷碑」	『歴史地理』7-8	
1905		横山健堂	「朝鮮役が本邦教育史に及ぼせる影響」	『太陽』11-5	
1906		阿部愿	「豊臣氏征韓の趣義を究めて其動機に及ぶ」	『史学雑誌』17-1	
1906		妻木忠太	「碧蹄館付近に於ける戦役につきて」	『史学雑誌』17-8	
1906		上郵涛畝	「壬辰役と殉死者（東莱の戦）」	『韓半島』2-2	
1906		幣原坦	「碧蹄館」	『歴史地理』8-10	
1906		長谷川自適	「利泰院の研究（日本村の史話）」	『韓半島』2-1	
1908		大川茂雄	「朝鮮梁青渓父子の伝」（征韓役に殉難せし儒臣）	『國學院雑誌』14-8	

刊行年	肩　書	著　者	論文名・記事名	収録誌名	備　考
1908	文学博士	松本愛重	「燃藜室記述の豊太閤に関する異説」	『國學院雑誌』14-1、3	『國學院雑誌』14-1は「朝鮮号」
1908		集成学人（大川茂雄）	「朝鮮史に見えたる壬辰役逸話」	『朝鮮』9	
1908		大川茂雄	「朝鮮史に見えたる豊公征韓役逸話」	『朝鮮』10	『朝鮮』は1908年3月日韓書房から発刊
1909	在京城	大川茂雄	「征韓役晋州儒兵の忠烈」上・下	『國學院雑誌』15-10、11	集成学人「朝鮮史に見えたる壬辰役逸話」の後半
1909		大川茂雄	「宣武一等功臣　李舜臣」	『朝鮮』12、13	
1909		河合蓋雲（弘民）	「文禄役に関する韓国史料」	『朝鮮』20、	『朝鮮』は1909年4月（通巻14号）から朝鮮雑誌社の刊行
1910		池内宏	「龍仁の戦」	『東洋時報』145	
1910		浅見倫太郎	「豊太閤の看破したる朝鮮」	『朝鮮』23	
1910		池内梧影	「文禄征韓の役に於ける清正の民政と韓国瑞川の銀山」	『東洋時報』141	
1910		池内梧影	「龍仁の戦」	『東洋時報』145	
1910	文学博士	幣原坦	「清正公と島山城」（蔚山籠城の真相）	『歴史地理』16-1	
1910		広田直三郎	「碧蹄館の合戦」	『朝鮮講演』1	朝鮮日報社
1910	騎兵大佐	山本米太郎	「戦略上より観たる豊太閤の征韓」	『歴史地理』臨時増刊・朝鮮号	
1910		田中義成	「倭寇と李成桂」	『歴史地理』臨時増刊・朝鮮号	
1910		辻善之助	「江戸時代初期における朝鮮との修好　附　豊太閤の朝鮮征伐及び支那征伐の原因について」	『歴史地理』臨時増刊・朝鮮号	
1910		松村介石	「豊太閤の豪傑的性格」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	文学博士	井上哲次郎	「乱世最後の英雄豊太閤」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	文学博士	三宅雄二郎	「豊太閤征韓軍の地位」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	伯爵	林董	「勝利に趣味を有する豊太閤」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	貴族院議員　前警視総監	関清英	「秀吉家康隆盛評」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	陸軍中将　子爵	三浦梧楼	「太閤様の大仕掛」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	文学博士	黒板勝美	「匹夫より起つて天下を掌握せし豊太閤」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	東京女子高等師範学校長	中川謙二郎	「豊太閤は世界的英雄」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	東京高等師範学校教授　文学博士	三宅米吉	「豊太閤の群雄統御法」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	早稲田大学講師	紀淑雄	「豊太閤の出現と本邦美術」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	高等師範学校教授	佐々醒雪	「豊太閤の文学に及ぼせし影響」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	

刊行年	肩　書	著　者	論文名・記事名	収録誌名	備　考
1910	文学士	今西龍	「韓国人の眼に映せし豊太閤」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	帝国大学教授　文学博士	荻野由之	「豊太閤の成功訣」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	神学博士	平岩愃保	「豊太閤の立身要素」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	第一高等学校教授	今井彦三郎	「豊太閤の宗教心」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	海軍中将　男爵	肝付兼行	「雅量と豊太閤」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	宮内省編纂官	本多辰次郎	「豊太閤と家庭」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910		山路愛山	「秀吉と家康との女性に対する傾向」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910		海老名弾正	「豊太閤の外交政略」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	女子高等師範学校教授	下田次郎	「豊太閤を現代に生れしめば」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	東京帝国大学史料編纂官	和田英松	「豊太閤勤王始末」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	文学博士	南條文雄	「豊太閤の宗教政策」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	東京帝国大学教授	岡田正之	「豊太閤の絶倫的天性」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910		押川方義	「豊太閤の偉大なる規模」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	陸軍教授	依田雄甫	「豊太閤朝鮮征伐評」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910		木村鷹太郎	「古今独歩東西無比の大英雄」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	陸軍教授	若林栄次郎	「裸体にせる豊太閤」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910		伊藤銀月	「豊太閤に対する歴史の誤謬」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	陸軍教授	西村豊	「豊太閤の人物と事業」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	女子大学講師	戸川残花	「桃山時代美術の特長」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910		蒼海隠士	「豊公水軍敗北の二大原因」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910		尊史道人	「豊太閤の大阪城経営」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	

刊行年	肩　書	著　者	論文名・記事名	収録誌名	備　考
1910	文学博士	久米邦武	「豊太閤の雄図拡大径路」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910	文学博士	遠藤隆吉	「韓国盛衰記」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910		長田偶得	「豊太閤本伝」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1910		高田大観	「豊太閤の余事」	『成功』19－4、臨時増刊・豊太閤号	
1911	文学士	池内宏	「カトカイと云う地名につきて」	『東洋学報』1-3	『東洋学報』は東洋協会調査部の機関誌
1911	学習院教授・文学士	大森金五郎	「文禄の役講和の内情」	『朝鮮』46	
1911		吉田東伍	「慶長征韓役の捕虜の倭中聞見録」	『歴史地理』17-4、5	
1912		池内宏	「カライサンと云う地名につきて」	『東洋学報』2-1	
1912		池内宏	「文禄役に於ける朝鮮の地名に就いて」	『朝鮮及満州』47	『朝鮮』は1912年1月（通巻47号）から『朝鮮及満州』と改称
1912		浅見倫太郎	「碧蹄館」	『朝鮮及満州』50	
1912	文学士	大森金五郎	「秀吉の外征に就て」	『史学雑誌』23-8	
1912		田中苹一郎	「日韓交渉史上に於ける蔚山」	『慶應義塾学報』175・176	
1912		谷井済一	「蔚山に於ける加藤清正等が籠りし城の遺址」	『考古学雑誌』2-5、7	
1912		河合弘民	「偽書慕夏文集」	『朝鮮及満州』64	
1913		上村閑堂（観光）	「朝鮮僧松雲と日本僧玄蘇」	『禅宗』225・227	
1913		清家彩果	「朝鮮と蒲生氏郷」	『朝鮮及満州』66	
1913		清家彩果	「朝鮮征伐に関する朝鮮の伝説」	『朝鮮及満州』70	
1913	文学士	池内宏	「海汀倉の戦につきての考」	『史学雑誌』24-5	
1913	文学士	河合弘民	「海汀倉の戦に関する懲毖録の誤謬」	『史学雑誌』24-7	
1913	文学士	池内宏	「咸廷虎の言に拠れる懲毖録の記事を検覈して河合学士の示教に答ふ」	『史学雑誌』24-8	
1913	文学士	河合弘民	「再び懲毖録の誤謬に就て池内学士に答ふ」	『史学雑誌』24-10	
1913～14	文学士	池内宏	「文禄戦役開始以前に於ける秀吉の対外的態度を論じて此の戦役の発端に及ぶ」（一）～（七）	『史学雑誌』24-7、9～12、25-1、2	
1914	文学士	池内宏	「京城の軍議に関する黒田家譜の記事の錯簡と軍議の時日」	『史学雑誌』25-3	吉川弘文館の『文禄慶長の役』復刊（1987年）にあたり、付編として復刻
1914	文学士	池内宏	「海汀倉の戦に関して再び河合学士の駁論に答ふ」	『史学雑誌』25-4	
1915		瀬野馬熊	「倭寇と朝鮮の水軍」	『史学雑誌』26-1	
1915		寺石正路	「朝鮮陣に於ける長曽我部家の功名」	『土佐図書倶楽部』97	
1915	文学士	池内宏	「加藤清正のオランカイ攻伐」	『史学雑誌』26-3	
1915		池内宏	「永興に於ける日本軍の徴税」	『学生』6-10、冨山房	
1916		小田省吾	「文禄の役に於ける加藤清正軍路の一部調査」	『朝鮮彙報』（大正5年7月）	『朝鮮彙報』は1911年6月『朝鮮総督府月報』として創刊、1915年3月『朝鮮彙報』と改題

刊行年	肩　書	著　者	論文名・記事名	収録誌名	備　考
1918		池内宏	「明将祖承訓の敗走以後に於ける我が軍の態度」	『史学雑誌』29-7	吉川弘文館の『文禄慶長の役』復刊（1987年）にあたり、付編として復刻
1918		魚澄惣五郎	「文禄慶長の役が我が製陶業に及ぼせる影響」	『歴史と地理』1-6	
1918		田中義成	「文禄役の発端に就きて」	『朝鮮彙報』（大正7年12月）	
1918		田中義成	「文禄役の発端に就て―秀吉以前に在り―」	『朝鮮及満州』136	9月19日京城高等女学校講堂での講演概略
1918		関太常	「南原戦史」	『朝鮮彙報』（大正7年3月）	
1918		大坂金太郎	「朝鮮人の記したる壬辰役の日記」	『朝鮮彙報』（大正7年5月）	
1918		竹内栄喜	「加藤清正の間島進入」	『歴史地理』31-2	
1918	陸軍歩兵中佐	竹内栄喜	「加藤清正の間島進入に就て」	『史林』3-1	
1918		武谷水城	「旧秋月藩主黒田家の古文書と鼻塚」	『筑紫史談』16	
1919		栢原昌三	「鳴洋峡の海戦」	『歴史と地理』4-4	
1919		渡辺世祐	「浅野幸長蔚山籠城に関する史料に就いて」	『歴史地理』34-1	
1919		小田省吾	「京城に於ける文禄役日本軍諸将陣地の考証」	『朝鮮及満州』150	
1919		荻山秀雄	「朝鮮帰化李一恕父子と紀州藩」	『朝鮮及満州』150	
1920		小田省吾	「京城に於ける文禄役日本軍諸将陣地の考証」（下）	『朝鮮及満州』151	
1920		栢原昌三	「文禄講和条約に就いて」（講演要旨）	『史学雑誌』31-5	
1920		小酒井儀三	「豊公の雄図と名護屋条約」	『歴史と地理』6-6	
1920	陸軍少将	杉村勇次郎	「朝鮮役の給養問題」	『史林』5-4	
1920		名越那珂次郎	「釜山鎮の日本城址と鄭公壇」	『歴史と地理』6-4、6	
1920～21		伴三千雄	「南鮮に於ける慶長文禄の築城」（其一）～（第八回）	『歴史地理』36-5、6、37-2、3、4、5、6、38-1	第五回以降の肩書きは「参謀本部戦史編纂員」
1922	文学博士	池内宏	「伴氏の「文禄慶長役数次の軍議」を読む」	『史学雑誌』33-8	
1922		伴三千雄	「文禄慶長役数次の軍議」1～4	『歴史地理』40-1～4	
1922		伴三千雄	「文禄役に所謂「古都」の弁」	『歴史地理』40-6	
1923		三浦周行	「朝鮮役に関する二三の考察」上・下	『芸文』14-5、6	
1923	城津	木村宇太郎	「吉州城の古文書発見」	『考古学雑誌』13-5	
1923・24		瀬野馬熊	「朝鮮近世史」	朝鮮史学会「朝鮮史講座」1～15	「朝鮮史講座」は小田省吾を会長とする朝鮮史学会が講義録として、毎月会員に頒布。1923年9月の第1号から、24年11月の第15号で完結。
1923・24		栢原昌三	「日鮮関係史」	朝鮮史学会「朝鮮史講座」1～8	
1924		栢原昌三	「鳴洋峡の海戦と統制使李舜臣」	朝鮮史学会「朝鮮史講座」5	
1924		瀬野馬熊	「蔚山城址と浅野丸」	朝鮮史学会「朝鮮史講座」8	

刊行年	肩　書	著　者	論文名・記事名	収録誌名	備　考
1924		小田省吾	「京城に於ける文禄役日本軍諸将陣地の考察」	朝鮮史学会「朝鮮史講座」14、15	
1924	陸軍編修	伴三千雄	「南鮮沿海の築城群―文禄慶長役史蹟の研究―」	『財団法人　明治聖徳記念学会紀要』21	
1925		相田二郎	「朝鮮の升」	『歴史地理』45-2	
1925		N生（相田二郎）	「朝鮮の人清正を拝む」	『歴史地理』45-2	
1925		武田勝蔵	「伯爵宗家所蔵豊公文書と朝鮮陣」	『史学』4-3	
1925		寺石正路	「朝鮮役虎狩並下元興宣伝」	『土佐史談』14	
1925		伴三千雄	「朝鮮役に於ける兵器と戦法の変遷」	『歴史地理』増刊号、のち日本歴史地理学会編『日本兵制史』、1926年	
1925		伴三千雄	「再び南鮮に於ける文禄慶長の築城に就いて」	『歴史地理』46-3	
1925		松田　甲	「本妙寺日遙上人」	『朝鮮』128	『朝鮮彙報』は1920年7月『朝鮮』と改題、朝鮮総督府による刊行
1926	京城帝国大学予科部長	小田省吾	「釜山倭館変遷と其遺址」（一）（二）（三）	『朝鮮史学』1、2、3	『朝鮮史学』は京城で結成された「朝鮮史学同攷会」の月刊機関誌。評議員長は総督府の修史官稲葉岩吉。
1926	京城帝国大学教授	小田省吾	「南鮮沿岸築城の遺跡」	『朝鮮史学』5	
1926	京城帝国大学教授	小田省吾	「李朝時代の水軍」	『朝鮮史学』6	
1926	京城帝国大学教授	小田省吾	「南鮮に於ける文禄慶長役の戦跡」（上、陸軍の部）	『朝鮮史学』7	
1926		武田勝蔵	「宗家文書より」	『史学』5-3	
1926		武田勝蔵	「宗家文書より（二）―豊公文書拾遺 附 秀次文書等―」	『史学』5-4	
1927		佳麗男	「文禄遺聞　清正と妓生」	『朝鮮公論』15-2	実録体小説
1927	京城帝国大学予科教授	名越那珂次郎	「切支丹信徒としての小西行長」	『朝鮮』141	
1927		（無署名）	「倭城台の名の起り」	『朝鮮』141	
1927		名越那珂次郎	「小西行長の基督教保護と神仏迫害」	『朝鮮』149	
1927		稲葉岩吉（君山）	「草本懲毖録に就て」	『史学』6-1	
1927		太田保一郎	「佶長老と韓僧松雲」	『中央史壇』13-6	
1927		佐藤保太郎	「文禄の役について」	『歴史教育』2-2	
1927		中山久四郎	「朝鮮役の帰化人」	『黒潮』32-3	
1927		岩生成一	「豊臣秀吉の台湾征伐計画について」	『史学雑誌』38-8	
1928		武久（大尉）	「現地講話　文禄役と明治廿七八年戦役」	『文教の朝鮮』16	
1928		中村栄孝	「忠武公李舜臣の遺宝―朝鮮役海戦史料の発見―」	『朝鮮』156	
1928		（無署名）	「伊達政宗と朝鮮の馬山城」	『朝鮮』158	
1928		圓應生	「慶長征韓余聞」（一）～（四）	『朝鮮公論』16-5～8	実録体小説
1928		圓應生	「蔚山甑城の籠城戦」（一）～（三）	『朝鮮公論』16-9～11	実録体小説
1929		名越那珂次郎	「日本切支丹に殉教せる朝鮮の人々」	『朝鮮』165	
1929		稲葉君山	「文禄壬辰役の事ども―朝鮮歴史の正解―」	『朝鮮』169	

刊行年	肩　書	著　者	論文名・記事名	収録誌名	備　考
1929		岡田鴻城	「文禄の役と京城」	『朝鮮』171	
1929		稲葉岩吉	「朝鮮役の結果を顧みて―内鮮共存の歴史―」	『朝鮮』172	『奉公』324（1930年）に再録
1929		（吉田猶蔵）	「文禄役と咸鏡道」	『朝鮮』172	『咸鏡北道史稿』の一部を摘録
1929		名越那珂次郎	「碧蹄館役と立花宗茂」	『朝鮮』174	
1929		岡田鴻城	「李适将軍と張晩元帥」	『朝鮮』175	
1929		山口正之	「徳川時代における朝鮮書籍の翻刻」	『文教の朝鮮』22	
1929	京城帝国大学教授	小田省吾	「李氏朝鮮時代における倭館の変遷」	『朝鮮及満州』265	
1930		都甲玄卿（宗弘）	「文禄役、釜山城の『明、冊封使』遁走事件に就て」（一）・（二）	『朝鮮』184、185	
1930		名越那珂次郎	「碧蹄館役と小早川隆景」	『朝鮮』184	
1930		山口正之	「日本耶蘇会宣教師セスペデスの渡鮮―朝鮮基督教史研究（1）―」	『青丘学叢』2	
1930		予覚民	「日本の大陸侵略史」	『歴史教育』5-10	
1930		景浦稚桃	「豊臣秀吉の外征と加藤嘉明」	『伊予史談』64	
1930		中村栄孝	「文禄・慶長の役と朝鮮の政情」	『歴史教育』5-8	
1931		山口正之	「耶蘇会宣教師の入鮮計画―朝鮮基督教史研究（2）―」	『青丘学叢』3	
1931		名越那珂次郎	「碧蹄館役と豊太閤の感状」	『青丘学叢』3	
1931		広田直三郎	「豊太閤征韓役失敗の原因」	『長崎談叢』8	
1931		松田甲	「朝鮮役と日本の陶磁器」	朝鮮総督府『続日鮮史話』3	
1931		山口正之	「耶蘇会宣教師の朝鮮俘虜救済及教化―朝鮮基督教史研究（3）―」	『青丘学叢』4	
1931		名越那珂次郎	「幸州山城の戦と権慄」	『朝鮮』198	
1931	朝鮮総督府図書館司書	奥田直毅	「文禄、慶長役と朝鮮の文化、特に図書に就て」（一）～（五）	『朝鮮及満州』285～289	
1932		山口正之	「朝鮮役に於ける被虜擄人の行方―朝鮮被虜擄人売買の一例―」	『青丘学叢』8	
1932		名越那珂次郎	「加藤清正と漢江」	『朝鮮』205	
1932		南角清	「蔚山城址について」	『史学会会報』10、神宮皇學館	
1933		黄慎	「交隣紀行　日本往還日記」	『青丘学叢』11	
1933		中村栄孝	「慕夏堂金忠善に関する史料に就いて」	『青丘学叢』12、のち『大邱府史』、1943年に収録	
1933		中村栄孝	「所謂朝鮮王族金光の送還に就いて」	『青丘学叢』13	
1933		田保橋潔	「壬辰役雑考（第一回）」	『青丘学叢』14	
1933		成田喜英	「倭寇と万暦の役」（1）・（2）	『歴史教育』7-11、12	
1934		近藤直	「朝鮮征伐」	『歴史科学』3-5	
1934		藤井真澄	「豊太閤と大アジア経綸」	『日本精神講座』8、新潮社	
1934		有馬寛	「文禄慶長の役の海戦に就て」	『筑紫史談』62	
1934		木下止	「文禄時代の軍船模型」	『歴史公論』3-7、『日本海軍史』、雄山閣、1934	

刊行年	肩　書	著　者	論文名・記事名	収録誌名	備　考
1934		中島権吉	「海軍兵術上より観たる豊太閤征韓役と日清日露役」	『歴史公論』3-7	
1934		花見朔巳	「征韓役に於ける我が海軍」	『歴史公論』3-7、『日本海軍史』、雄山閣、1934	
1934		渡辺世祐	「豊太閤朝鮮征伐の目的」	『日本精神講座』6、新潮社	
1934		黒田省三	「所謂服部伝右衛門朝鮮陣覚書に就いて」	『青丘学叢』17	
1934		黒田省三	「臨海・順和二君の生擒と其送還」（要旨）	『青丘学叢』18	貞陽会第二十回例会
1935		中村栄孝	「加藤清正」	『伝記』2-4	
1935		大木透	「新資料に拠る加藤清正の海外貿易に就いて」	『伝記』2-4	
1935		桑田忠親	「豊臣時代人物の一考察」	『伝記』2-4	
1935		中村栄孝	「文禄・慶長の役」	『岩波講座　日本歴史』	
1935		渡辺世祐	「朝鮮役と我が造船の発達」	『史学雑誌』46-5	
1935		中村栄孝	「国史と海外史との交関　朝鮮史」	『歴史教育講座』資料編3、四海書房	
1935		中村栄孝	「明鮮外交文書集『事大文軌』に就いて」	『朝鮮』247	
1935		犬飼俊三	「慶長十一年国書考」一・二	『文教の朝鮮』54・55	
1935・36		黒田省三	「冊封日本正使李宗城の奔還に就て―壬辰役研究の断章―」（上）・（下）	『青丘学叢』20、24	
1936		石森久弥	「朝鮮に於ける伊達政宗公」	『仙台郷土研究』6-5	
1936		岡田鴻城	「文禄の役と京城の史蹟並に伝説」	『朝鮮研究』9-7	
1936		黒田省三	「八道国割に就いて」（要旨）	『青丘学叢』25	貞陽会第三十八回例会
1936		中村栄孝	「漢陽定都と漢城府の開基―鮮初の都市経営についての瞥見―」	『朝鮮』253	
1936		池内宏	「東莱の安楽書院と釜山東莱二城陥落図」	『青丘学叢』26	吉川弘文館の『文禄慶長の役』復刊（1987年）にあたり、付編として復刻
1936		中村栄孝	「全州史庫とその蔵書に就いて」（上）・（下）	『文教の朝鮮』133・134	
1937		池宮新	「池内宏著「文禄慶長の役」」	『史学』16-2	
1937		池内宏	「自著「文禄慶長の役、別編第一」要約」	『歴史学研究』39	
1937		李在郁	「李朝実録の成立に就て」	『文献報国』18	
1937		中村栄孝	「文禄・慶長の役を中心とせる外交事情」	『歴史教育』12-7	
1937		中村栄孝	「文禄役にわが軍は朝鮮で何をしたか」	『朝鮮』271	
1938		中村栄孝	「慶長役の意義」（講演要旨）	『史学雑誌』49-7	
1938		丸亀金作	「朝鮮宣祖朝に於ける明丁応泰の誣奏事件」（一）・（二）	『歴史学研究』58、59	
1938		山口正之	「文禄役中朝鮮陣より発せし耶蘇会士セスペデスの書翰につきて」	『史学雑誌』49-2	
1938		和田清	「支那側より見たる豊太閤封王の事情」	『日本諸学振興委員会研究報告』4（歴史学）、のち同『東亜史論藪』、生活社、1942	

刊行年	肩　書	著　者	論文名・記事名	収録誌名	備　考
1938		青場駿三郎	「常勝軍・慈悲軍」	『歴史公論』7-1	
1938		明知正衛	「慶長軍の智勇美談」	『歴史公論』7-1	
1938		奥田久司	「朝鮮役の前線佳話」	『歴史公論』7-1	
1938		千島好太郎	「加藤清正と朝鮮二王子」	『歴史公論』7-1	
1938		長崎研一	「慶長外征軍の武士道精神」	『歴史公論』7-1	
1938		広田忠男	「秀吉の外征戦略と美譚」	『歴史公論』7-1	
1938		丸亀金作	「朝鮮全州史庫実録の移動と宣祖の実録複印」	『史学雑誌』49-6	
1938		八木東作	「慶長役の名君と忠臣」	『歴史公論』7-1	
1938		栗田元次	「三百五十年前の大亜細亜主義者豊太閤の宏業と豊公伝の刊行」	『史学研究』9-3	
1939		野村晋城	「朝鮮の役と北九州に於ける都市の発達」	『社会経済史学』9-3	
1939		渡部英三郎	「朝鮮征伐の時代的意義」	『歴史』9	
1939	京城帝国大学法文学部助教授	末松保和	「朝鮮行政講座　朝鮮史（一八）」	『朝鮮行政』3-5	『朝鮮行政』は、『朝鮮地方行政』（1922年発刊）の後継誌として1937年1月から1944年3月にかけて、帝国地方行政学会（帝国地方行政学会朝鮮本部・朝鮮行政学会）より発行。
1940		小西干比古	「朝鮮征伐を思ふ」	『日本及日本人』390	
1940		高井浩	「明との和議」	『歴史教育』14-12	
1940		原田二郎	「朝鮮の役に於ける日明両軍の武具比較」	『刀と剣道』2-7	
1941		古田良一	「秋田家文書による文禄・慶長初期北国海運の研究」	『社会経済史学』11-3	
1941		穂積文雄	「明史日本伝に見ゆる秀吉」	『支那』32-9	
1941		奥田直毅	「碧蹄館大戦の再考察」	『文報』（文献報国）7-6	
1942		丸亀金作	「文禄・慶長の役と南方人種の海鬼について」	『歴史学研究』103	
1942		岡田貢	「洗剣亭は古戦場か」	『京城彙報』243	
1942		岡田貢	「小早川橋と隆景の陣地」	『京城彙報』244	
1942		新城常三	「朝鮮役に於ける水運の問題」	『交通文化』20	
1942		徳富猪一郎	「壬辰の役と朝鮮文化の移入及び其の感化」	野口信二編纂『積翠先生華甲寿記念論纂』、積翠先生華甲寿記念会	
1942		魚澄惣五郎	「豊太閤の雄図を偲ぶ」	『上方』136	
1943		岡田貢	「冠岳山と小西行長の陣地」	『通報』147	
1944		平岡武夫	「秀吉と明史」	『学芸』1-3	